

立って待ち、「青」になった途端に1歩を出すようにして渡ります。

それでも途中で信号が赤になってしまうことがあり、運転手さんがたが協力して待ってくださる中を、必死で歩ききるのです。

これは相当怖いことで、要望をくださったご婦人が「命がけです」とおっしゃった気持ちがよくわかります。

しかし歩行時間を長くしたら、交通に影響が出ますので、やはり慎重に検討されなくてはなりません。総体的に見て、どこを重視していくべきか。県警の方にそれをわかっていたくために、私は不自由な言葉で説明し続けました。

今ここで答えを出してもらうのはムリですが、今後の検討は、ここでの資料が元になるので、理解してもらおうように話をしておかななくてはなりません。

今後、「検討の結果、据え置きとなりました」と回答されたら、またスタートラインに戻ってしまいます。いや、もっとやりにくい出発点に立つことになるかもしれません。

参考になる資料提供も大事なことです。手紙やメールでもできます。それは今までに行ってきましたが、それだけでは要望を響かせることには届かないのが現実です。実態と、実数と、実感を、直接要望し、ここにいる担当者の方々に、心に何かを残すこと、感情、気持ちに訴えることが最終的な課題でした。

話し合いが終わり、私は県警を出ました。あとは待つしかありません。

一週間、二週間、一ヶ月…。長かったです。

2009年、去年の暮れでした。

私は、鎌倉市から、この問題の決着がついたことを知らされました。

「鎌倉駅前交差点歩行時間を、20秒から25秒に、5秒延長しました」

この時の気持ちを、どう表現すればいいのか。

「やったあー」と叫ぶのでしょうか。

いいえ、私は不思議に厳粛な気持でした。ここ何年もの間、障がい者の団体の方々が訴え続けてきた《難問題》が解決でき、感慨深いものがあったのです。

どのような立場の、誰が訴えようとも、その内容を、親身になって検討していただきたいものだと思います。

でも、そのことが難しい現実であっても、やはり、それを皆さんと一体となり、協力しあって取り組む熱意、努力が必要なのだとも自覚した次第です。

私は協力してくださった友人に、まず電話しました。そして言いました。

「あのご婦人に、このことを伝えて下さい」後日、私は鎌倉駅前の交差点を渡りました。普通で渡りきれました。杖をついているお年寄り、足の弱い方を目の当たりにして、鎌倉市には、なんとこのような方々が多いことかと、改めて実感しました。

また、地図を片手に、不安そうに交差点を渡られる観光客の方々もいらっしゃいました。

皆さん、以前のように、交差点の途中から、あわただしく駆けだすこともなく、普通に渡りきっていらっしゃいました。

ごく当たり前のことながら、この光景は、私には、新鮮な嬉しい場面でありました。

「たかが5秒、されど5秒」

5秒の延長は、だれも気づいていらっしゃらないかもしれません。

でも、それでいいのですよね……。

その日は、お日様がピカピカに輝く一日でありました。

ありがとう、訴えてくださったご婦人

ありがとう、鎌倉市職員の方々

ありがとう、神奈川県警の方々

ありがとう、

ありがとう、この交差点



市議会で は、毎回、「一般質問」の席に立ち、鎌倉の福祉行政に対して、鋭いメスを入れる!!

## 私も応援します!!

- ◇ 中田 光彦  
社会福祉士、介護福祉士、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 宇野 峰雪  
弁護士、元横浜弁護士会副会長、神大OB、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 中村 平八  
経済学博士、元神奈川県立経済学部長千一の大学時代の恩師、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 海老名健太郎  
松下政経塾第22期生、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 小木 和孝  
医学博士、財団法人労働科学研究所・元ILO労働条件環境局長、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 小木 節子  
鎌倉バリアフリー研究会 会員、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」代表委員の一人
- ◇ 山口 道孝  
東ティモール医療友の会・副運営委員長、「千一と介護・福祉・バリアフリーを考える会」会員